

1. ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	
DP1	比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。
DP2	文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。
DP3	専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。
DP4	比較文化の視点に基づく研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに国際的協働に貢献することができる。

2. アセスメント・ポリシー

#	アセスメント項目	アセスメント・プラン	対応するDP								責任主体	備考	
			DP1	DP2	DP3	DP4							
共通基礎アセスメント項目													
1	入学試験	入学定員充足率及び収容定員充足率によりアセスメントを行う。	○									研究科執行部	
2	GPA	GPA分布によりアセスメントを行う。		○								研究科執行部	
3	成績評価	成績分布及び単位修得率によりアセスメントを行う。		○								研究科執行部	
4	履修状況	履修登録率によりアセスメントを行う。			○							研究科執行部	
5	在学生調査	在学生意識調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。		○								研究科執行部	
6	海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等	各海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。			○	○						研究科執行部	
7	地域活動	各地域活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。			○							研究科執行部	
8	退学率/休学率	退学率及び休学率によりアセスメントを行う。		○								研究科執行部	
9	検定/資格（外部語学検定試験含む）等	各種検定・資格の受験条件充足率、受験率、合格率等によりアセスメントを行う。											実施している専攻のみ対象
10	学位授与	学位授与数によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
11	修了後の進路	就職率及び進学率によりアセスメントを行う。			○							研究科執行部	
12	修了時調査	修了時調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
論文作成過程アセスメント項目													
13	研究計画書	研究テーマの適切さ、計画の遂行可能性、計画書の適切さについて指導教員を中心にアドバイスを行う。	○	○								研究科執行部	当該学生の主査が実施主体となってアセスメントを行う。
14	資格試験（Qualifying Examination）	博士論文作成資格試験（4分野）および外国語試験の成績によってアセスメントを行う。	○	○								研究科執行部	当該学生の主査・副査が実施主体となってアセスメントを行う。
14	論文作成計画審査（Prospectus）	論文テーマ、目的と方法、構成と要旨、参考文献の妥当性について 事前に院生から提出された論文作成計画書に基づき口述試験でアセスメントを行う。	○	○	○							研究科執行部	次年度より博士論文作成計画評価シートを使用する予定。当該学生の主査・副査が実施主体となってアセスメントを行う。
15	博士論文予備審査	博士論文口述試験に進むことの可否について、事前に院生から提出された学位請求論文（草稿）に基づき論文審査と口頭発表・質疑応答によってアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	博士論文予備審査評価シートの使用を検討する。当該学生の主査・副査が実施主体となってアセスメントを行う。
16	博士論文審査（最終口述試験）	提出論文が独創性、発展性、実証性、論理性を有し、申請者の発表が効果的であるかについて博士論文評価シートおよび口述試験によってアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	当該学生の主査・副査が実施主体となってアセスメントを行う。

比較文化専攻博士（課程レベル）新旧DPマッピング表

◆新DPと旧DPの比較

新ディプロマ・ポリシー (2022年度入学生から適用)	
DP1	比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。
DP2	文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。
DP3	専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。
DP4	比較文化の視点に基づく研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに国際的協働に貢献することができる。

旧ディプロマ・ポリシー (2021年度入学生まで適用)	
DP1	「比較文化」「比較ジェンダー論」「国際日本学」のいずれかの学問領域において、地域的・民族的文化に関する緻密な体系的知識を身につけている。
DP2	社会の多様な方面で活躍し得る豊かな学識を身につけている。
DP3	専攻分野において研究者として自立し、研究活動をおこなうために必要な高度の研究能力（文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力）を有している。
DP4	比較研究の視点により、より深く異文化を理解することができる。
DP5	冷静で的確な判断力と比較文化の視点に即した価値観を有している。
DP6	専門とする分野や領域から隣接諸学に視野を広げることにより、研究の新たな方向性を模索している。
DP7	グローバル社会の維持・発展に人文科学の知を生かそうとしている。
DP8	専攻する学問領域において、比較文化の視点に即した価値観に基づいた研究実績を有し、際立った学術的貢献ができる。
DP9	国際的・地球的な視野に立ち、国際社会の中での日本の学術の発展ならびに国際的協働に貢献できる。
DP10	本課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたいえ、本学学位規程の定める博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

◆新DPと旧DPのマッピング

新DP	旧DP									
	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10
DP1	DP1	DP2	DP4							
DP2	DP3	DP4								
DP3	DP4	DP5	DP6	DP7						
DP4	DP8	DP9								

備考